

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成16年10月(2004年)No.466

## 第44回OMC映像フェスティバル 盛会だった新会場での開催

今年、従来までの阿倍野市民学習センターの開催に替えて、大阪市立中央会館に場所を移して開催しました。場所が少し判り難いことや、数分歩いて貰う等のハンディがありました。会場は天井が高く収容力も大きく、見易いとの判断から中央会館にしましたが、入場者数への不安も吹きとび、前年度並みの入場者がありホッとしました。会場設備といい、作品内容といい、ご来場者の満足度は高かったように思います。観客動員にご協力頂いた会員各位に厚く御礼申し上げます。

◎次の方々から祝電を頂戴いたしました。

日本アマチュア映像作家連盟	会長	加藤雅巳様
東京アマチュア映像連盟	顧問	川上勝悟様
新潟県アマチュア映像連盟	会長	河辺明彦様
東京映像	会長	渡会 猛様
神戸映像		会員一同様
京都アマチュア映像連盟	会長	中嶋 哲様
京都映像サークル		会員一同様
明舞ビデオ友の会		会員一同様
和歌山映像連盟ビデオサークル紀南	会長	森 裕治様

◎次の方よりご祝儀を頂戴いたしました 守口市 萩巢 勲様

祝電、ご祝儀を頂いた方々には早速ご礼状を出しておきました。

■会員のビデオコンテスト入賞のお知らせ。おめでとうございます。

第34回 和歌山県アマチュア映像コンクール

県視聴覚教育連絡協議会 会長賞 「清姫情炎」岡本至弘様

### 10例会のお知らせ

10月例会は第4土曜日23日、大阪市立難波市民学習センター(OCATビル4階)にて18時より開催します。このところ涼しさも増してきました。月一度の楽しい集いにせひどうぞ。作品もよろしく。

## 大阪アマチュア映像祭 11月3日中央図書館にて

■OMCからは関、前田、進藤の3氏出品  
今や関西地区最大の映像イベントに定着した感のあう大阪市立中央図書館と大阪アマチュア映像連盟との共催による大阪アマチュア映像祭は、来る11月3日(文化の日)に開催されます。今年は新しく西村光雄会長「映像クリエイティブ」が加盟され、全部で11クラブが23作品を発表されます。

OMCからは

関 剛 氏 「ルネッサンス狂想曲」  
前田茂夫氏 「知恩院」  
進藤信男氏 「水鳥の詩」

が出品されますが、特筆すべきは3本共ワイドの作品ということです。アマチュア映像の世界も、ワイドやハイビジョンがじわじわ入り込んできており時代の流れを感じさせます。ワイド作品の出品はOMCだけで、OMCのリーダーぶりを示す場ともなりました。会員諸氏には当日の観客動員にどうぞ協力ください。

### 9月例会のレポート

9月の例会は25日の午後6時より何時もの例会場で開催しました。司会、安居さん、書記、有村さん、デッキ係に増池さん、江村さん、受付兼証明係を奥さんの担当で進行しました。

◆出席者：関、江村、有村、増池、奥、渡辺、河合、前田、藤原、森、上総、森下、華岡 森口、安居、金子、山本、進藤、江藤、吉岡、宮崎、今井、黒田、秦、森田(敬称略)の皆さんと見学者2名の合計27名と作品本数12本でした。

### ◆上映作品

(今月の記録と講評担当：有村世話役です)

#### 1) 永沢寺

増池 茂さん 5分55秒

兵庫県三田にある花の寺を訪ねましたが真夏でそれらしい花もなく、でも折角来たので撮影しました、という断り書きで始まるこの作品は落ち着いたアップ画面を多用されているので映像に迫力があり、カット

つなぎをセオリー通りの尻取り方式で編集されてよく出来ていました。でも単にスケッチに過ぎないものを作品にするには、作者の思いをナレーションなりテロップで語ってこそ観客にアピール出来るのではないのでしょうか。

#### 2) 姫川源流をゆく

森口吉正さん 7分30秒

残雪の白銀に輝く北アルプスの山々をバックに長野県白馬村の美しい自然が紹介されます。季節は5月、田植えの準備が始まっています。白馬村南端の湿原近くに端を発した姫川が紹介されます。よく合った音楽に流暢なナレーション、素晴らしいです。そして森口さんお得意の名水百選の一つが語られます。ただ青木湖と源流との位置関係が今一つ判り難いのでこの際、湖はない方が判りやすいように思いますが如何でしょうか?

#### 3) 初夏の越後路

有村 博 さん 9分45秒

今年の6月に日本アマチュア映像作家連盟の総会が新潟市で開催され、2泊3日で県下をバス旅行して行なわれた撮影会の作品です。三脚を持参せずに撮影してみたのですが、やはり動かない被写体のアップが全然ダメでした。従って迫力ある映像にならず残念でした。決着するまでの勝負をつけない牛の角突きと、堀ノ内やな場の鮎の手づかみ疑似ショーの所は説明不足でした。

#### 4) 花火 熊野灘(ワイド)

上総修一郎さん 8分00秒

軽快な音楽に合わせて、有名な海上花火が紹介されます。流石にベテランの上総さんです。美しい色合で花火を表現されています。雨が降ってきた所の編集もお見事でした。でも花火をいろんな角度から撮影してみてもパターンが同じで長く続きますと単調さが目立ってきます。もう少し短い方が有り難いように思いました。

#### 5) 神鎮もれる山

河合源七郎さん 5分17秒

蔵王と並んで有名な青森県八甲田山スキー場の樹氷を撮影されました。アイスモンスターとも、エビの尻尾とも云われるこの

樹氷は日本海からの強烈な北風で1月下旬頃から出来るそうです。お天気が良くないと絵にならないようで、8回も現地に行かれて初めて撮影されたそうです。すごい迫力がありました。音楽について色々ご意見が出ましたが、やはり賛美歌のように聞こえるこの音楽は合わないのではないのでしょうか。それとこれだけの見事な作品の終りに、音楽が途中で切れるのは如何にも惜しい気がしました。

#### 6) ビルの谷間に滝が…

奥 宏さん 5分10秒

空中庭園のある梅田スカイビルに行かれて大阪市内を色んな角度から俯瞰撮影して来られました。次に同じ敷地内にある庭園の滝を中心に後半が進行しますが、その滝が題名になっているようです。ビルの屋上から下りて庭園に移る所は、最初ビルから庭園を見下ろすカットに「ここに庭園がある」とテロップで説明して、その次に庭園からビルを見上げるカットを入れるとビルと庭園の位置関係がもっとはっきり判って繋ぎが良くなるのではないのでしょうか。

#### 7) 上高地の印象 (ハイビジョン)

前田 茂夫さん 6分00秒

幻想的な朝霧の立ち籠める大正池を中心にHDVで撮影してこられました。素晴らしい解像力にはため息が出ます。来月発売されるソニーのカメラにひとしきり話題が集中しました。作品は今一つ天気が良くなって、登山基地としての売り物の穂高山脈の山々が拝見できず、河童橋や明神池もこのタイトルなら見せてほしかったと思いました。それとワイドでもHDVでも、前作の「知恩院」のようにアップが大切だなぁーと思いました。

#### 8) 尼崎ギャルみこし (ワイド)

吉岡貞夫さん 6分30秒

5年程前にソニーのカメラ (VX-9000) でワイド撮影したもので、現代のようにワイド発表が盛んになって初めての公開だそうです。このイベントは、当時は尼崎の商店街でもやっていたんですね。大阪の天神さんの専売特許ではなかったようです。元氣なピチピチした若い女性が威勢よくみこしを担ぐ姿は楽しいものです。よかったです。

す。いよいよワイド撮影の技法を研究しないといけない時代になったようですね。

#### 9) YOSAKOI 2004 (ワイド)

江村一郎さん 9分20秒

被写体に最接近して手持ち広角で撮る江村さん独特の映像をワイドで見せて頂きました。迫力満点で息つく暇もない程でした。夜のライトの逆光を旨く生かして感覚的な映像が続きます。欲を云いますと、これで後半に何か最も盛り上がる映像群 (例えば全身や顔に汗が滴り落ちるようなカットばかりを集めるとか) を作って起承転結をつけて頂くともっと良くなるのではないかなぁーと思いました。素晴らしい作品でした。

#### 10) 花モン族

山本正夢さん 10分00秒

ベトナムの北部、中国との国境に近い町を訪ねて撮影して来られました。5ヵ国語の話せる山本さんの直接のインタビューかと思いましたが、あちらで一緒になった人との英語を介しての会話だったそうです。花モン族とは花柄の服装の女性が多い種族で、黒服姿が黒モン族と欧米人が勝手につけた種族名だそうです。1度旅に出たら船で上海へ渡り中国から東南アジアを1ヵ月以上も一人旅をされる山本さんにお聞きしました。「市場の中で可愛い子犬を売ってましたね。あれ、ペット用ですか」「いやあれは食用ですよ」。文化の違う土地の珍しい映像をこれからもどうかよろしく。

#### 11) 関空10周年

安居利次さん 8分00秒

息子さんの新車で関西国際空港へ行き撮影してこられました。新しく改装された展望台で飛行機を見ながら感想を語っておられます。2期工事のこと、国内線乗り継ぎのこと、伊丹空港のこと、神戸空港のこと、近隣諸国のハブ空港のこと等など。それに10年前の開港当時との比較、色々参考になるお話を聞かせて頂きました。

#### 12) アユタヤ

森田光春さん 7分30秒

タイの首都バンコクの北に位置するアユタヤの遺蹟は世界遺産にも登録されています。私も森田さんに連れて行ってもらい現地に行きましたので懐かしく拝見しまし

た。広大な敷地に巨大な遺蹟と現代の生活が同居している所で、その二つを如何にして紹介するか、が苦心するところです。一人見当らない遺蹟と、お正月で賑わうお寺の描写との切り替えをどうするか、です。そんな事を考え乍ら見ていると、仏像の首がいきなり動きました。これにはビックリしました。トリックだったそうです。あの時は暑かったですね。ご苦労さまでした。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶店と居酒屋に別れて2次会を楽しみました。

## ■アマチュア映像界にも新しい波が

### ハイビジョン時代を迎えての

#### 課題と見通し

1年半前にビクターハイビジョンカメラが発売されるまでは、HDは放送局の専売でアマチュアには無縁のものと、多くの人が思っていました。しかしビクター機が発売され、私は実際に使ってみてDVとは全然比較にならないその映像美に圧倒されたというのが正直な感想です。さらにこの15日にSONYのHDR-FX1が発売されました。SONY機はビクター機(1280×720/30P)と違って、1440×1080/60iの本格的なハイビジョンカメラです。このHDVにどう取組んだら良いか、いろいろ考えてみました。

①今のDVでも十分に綺麗なので買う必要はない。②関心はあるが、カメラとPCとに相当投資が必要だ、さらに薄型デジタルテレビまで用意すれば、百数十万円もかかる。購入を決し難い。③大いに関心があるが、編集が難しそう、もっと小さくて軽い機種が出るまでさらに様子を見たい。④大いに関心がある。編集問題が解決すれば買いたい。⑤すぐにでも買いたい、という五段階があらうかと思えます。この分類で②③④の方が悩まれることと思えます。

1.確かに編集用PCは最高クラス(3.2Ghz以上のCPU、メモリは2GB、グラフィックカードも中級以上)が必要で買い替える必要があります。

2.SONY機は性能は良さそうだが大きくて重たくて図体がでかい、ということも逡巡する原因の一つであります。三脚は大型が

必要となると、海外旅行には無理です。

3.コンテスト出品もビデオ作品制作の楽しみの一つある。現状では、ハイビジョン作品の受付はJVC以外は行っていないので、従ってコンテストに応募出来ないHDVフォーマットは購入検討に値しない。

これらの要因もあってますます導入問題が複雑であります。一方次のような考え方も成り立つと思います。

4.ハイビジョン機を買ったからといって、全ての作品をそれで撮るわけではない。ドキュメンタリー(特に人間ドキュメンタリー)作品は、4:3のサイズがピッタリなので、DVがよい。よって制作目的によってHDVかDVかを使い分ければ良い。

5.最高級のSONY機は性能は申し分ない。しかし撮影目的を考えると、VICTOR機も検討対象に入ると思えます:インターネット最安値は、FX1は39万円、HD1は19万円(いずれもキット付)ということであり、コストと大きさを考慮してビクター機の導入も視野にいれたらどうでしょうか。6.ビクター機の30P撮影による動きのぎこちなさは、30フレーム/秒撮影すればさほど目立たないといわれている。

以上いろんな条件を考慮すると、ハイビジョンという素晴らしい映像を自分のものにするか、或いは画質の落ちるDVを続けるか、ということにつきるのではないのでしょうか。ビデオ映像を趣味にしている私達は、良い作品を、出来るだけ綺麗な画質で観ていただきたいと思っています。出来るだけ綺麗な画質は、HDV又はHDを導入すればよいと思います。何しろ新しい方式だけに導入にいろいろ考えることは当然です。会員の皆様はどのようにお考えでしょうか?

なお、薄型大型のデジタルテレビは、必須商品ではなく有るに越したことはありませんが、なくても十二分に楽しめます。17インチのPC液晶モニターを近い所(50cm)から見るのと、42インチの液晶テレビを少し離れて(120cm)見るのと、眼の視野角度はほぼ同じです。つまり映像の見掛けの大きさは変わらないということです。

(前田茂夫)